walls and pyrenoids. N: Reddish brown zygotes. O: Germinating zygote. Note hyaline bodies in thin-walled protuberance. P: Biflagellate gone cell escaping from zygote wall. Q: Biflagellate gone cell with gelatinous envelope. R: Empty wall and zygotes. S-X: Gone colony formation. S: 2-celled stage. T: 4-celled stage. U: 8-celled stage. V: 16-celled stage. W: Inversion stage of 16-celled plakea. X: 16-celled gone colony in gelatinous envelope.

* * * *

本邦産の *Pandorina unicocca* Rayburn et Starr (緑藻・オオヒゲマワリ目) に関する報告はいまだない。筆者は神奈川県，三浦半島の野比にある池より得たこの種の無性生殖と有性生殖の過程を培養条件下で詳細に観察する事ができた。その結果は Rayburn ら (1974) の報告と基本的には一致したが，無性生殖時の親のゼラチン様膜に関して，彼らが指摘していない形質が，今回，彼らが用いた株を含めて認められた。この形質は同属の *Pandorina morum* Bory とは異なり，それが両種の形態的差異 (群体を構成する細胞の密着の程度) に関係するものと思われる。

Pandorina unicocca の新鞭毛の突出の様式と，今回認められた親のゼラチン様膜に関する形質は共に *Pandorina morum* のものとは異なるが *Eudorina-Pleodorina* 属に認められる形質である。これらの事実から *Pandorina unicocca* は，*Pandorina morum* よりも *Eudorina* 属に近縁のものと推測される。

□伊沢凡人：**原色版日本薬用植物事典** (B. IZAWA: Illustrated Cyclopedia of medicinal Plants (Materia Medica) of Japan) pp. 331, pls 142. 1980. 誠文堂新光社. ¥20,000. かつて4巻に分けて出版されたものを，今回改めて1巻としてまとめ，他日スライドと文献を整理して全2巻として上梓するという。461種の薬用植物を科ごとにまとめ，科名のアイウエオ順に配列し，各種に図版を添えて，生育地，性状，花，漢名，生薬名，薬用部，成分，薬理作用，漢方，西洋医学，民間療法，食用，其他にわけて記述している。ことに漢方と民間療法のところに力が入っていて詳細を極めるが，これらはできるかぎり発効について要をえたものに限ってあるという。図版にも意を用いて，薬用部分を主にしてあるので参考となる。早く第2巻のでることを望んでやまない。

(前川文夫)